

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>23</u>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>10</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>17</u>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>38</u>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<u>13</u>
	<u>合計</u> <u>101</u>

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに問わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけています。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームぶなの木
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	魚沼市井口新田673-1(魚沼市)
記入者名 (管理者)	金澤 貴子 (金沢 真美)
記入日	平成 20年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■部分は外部評価との共通評価項目です)
(項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念・介護理念とも具体的にわかり易く示して、廊下などに掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	掲示板等に貼布し、誰でも見られるようにしてある。 地域とのふれ合いや関係を持ち、安心した暮らしが提供できるような理念をあげている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに記載するとともに理念や一日の過ごし方なども小型リーフレットで、家族や見学に来られた方に配布している。民生委員の方達に話をする機会をもてた。	○ 近隣住民・地域に対する理念の浸透や広報活動を通じ、さらに理解が深まるこことをめざしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	納涼祭には、チラシを配布し、昨年より大勢の参加が得られた。 また、周辺の散歩などを通じて地域や近所の方や通りかかった子供達とあいさつを交わしたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りに参加させてもらったり、みこしがホーム前に来て地域の方々、子供達とふれ合う機会ができた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人クラブ団体や、地域のボランティアの発表の場として歌、踊り、手品等、見せてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、改善すべき点は全員で理解し、向上心を持って取り組んでいる。他ユニットとの風通しも良く、相談しながら取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の会議開催において、利用者やサービス提供の状況報告や、参加者からの評価・要望・助言を頂いている。それを活かすように話し合い積み上げていくようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議等に出席し、ホームの様子も状況報告したり、他施設職員との交流もある。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	2Fでは、今現在必要とされるケースはないが、研修がある際は、出席し学んでいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、学んだことを報告したり、どういう行為が虐待になるのか理解を深め防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	管理者が時間をかけて説明を行っている。 不安や疑問点は、いつでも受け付け丁寧に対応している。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常に職員全体に情報、周知させ、徹底を心がけている。 利用者の意見等には、都度しっかりと聞くようにしている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしづらりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	定期的に通信だより、外泊時には個々の様子を記入した文書、面会時には、個別的に家族と顔を合わせ、お互いの情報提供の場としている。個人用アルバムも見てもらい生活の様子を目で確認してもらっている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ホーム内外の苦情・相談受付窓口を明示し、玄関口付近に意見箱も設置している。 また、家族等との話の中で苦情等と受け止めたものについては、記録して職員で共有し、改善に努めている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回の職員会議をはじめ、日常的に職員と管理者とが何でも言い合える雰囲気づくりに努めている。職員の意見や提案を取り入れ、花壇・畑づくりなどを行っている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	当日になっての職員増加の確保は難しいので、必要な時間帯は、あらかじめ職員配置しておく。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今のところ、離職は見られない。 異動はあるが、実習や慣れる期間を設け、利用者への支援の途切れのないように配慮している。	
18-2	<p>○マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	入浴・食事・排泄等の介護マニュアルや、感染予防や事故防止・防災マニュアル等を整備し、各ユニット毎にファイルし、いつでも確認できるようにしている。不足があった時は、適宜見直ししている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の職員会議の際、テーマを決めて内部研修を行っている。外部研修や学習会には、必ず参加し、報告書あるいは、申し送りの時などに伝達するようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会議に出席したり、G・H同志の集まりがあり、看取り事例について学んだり、日頃の思いを他施設と分かち合ったり、話したりする時を持つことができ、交流、勉強会等に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	保健所の保健師による、ストレスについての話をホームに招いて、聞くことができた。ユニットごとの休憩室や喫煙室が一室ずつ設けてある。管理者や代表が適宜悩みや話を聞いている。 年3回程度の親睦会を実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	運営者は頻繁に現場に来て、利用者と過ごしたり、職員の様子も把握している。外部研修にも積極的に参加を勧めたり、得意分野を生かすなどして向上心を持って働けるよう、援助してくれている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談において状態把握し、本人の求めているものについて理解しようと努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の状況把握に努め、信頼関係をまず管理者の方から築いてくれている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、その状況に応じた改善方法や必要に応 じた支援の提案を行うよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	入居者の様子を見ながら、サービス内容を決めていく。 家族にも聞きながら、入居者をよく理解し、必要としているこ とを見極めるようにして計画をたてる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	本人の思いや不安を訴える入居者に対して、根本にあるこ とを知るよう努めたり、支えあえる関係作りに配慮している。 また、入居者から教えてもらう部分も大切にして職員が積極 的に聞く姿勢を持つようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支 えていく関係を築いている	面会時は、入居者の様子を伝える良い機会ととらえ、また家 族からも情報をもらったりして、本人を支えていくお互いの思 いを共有し、支援する態勢をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていくように支援し ている	入居者の思いと家族の考えとが違うことがあり、疎遠になっ てしまうこともある。その為、ホームに入居された事について も納得いかない部分があったため時々その思いを職員や他 者にぶつけることもあります、気持ちを十分受け止めることに力を 入れている。	○	家族との関係も、ホームとの連絡もスムーズであるが、本 人に会って話をされるところまでいかない家族も見られる ため、日頃の状態の報告、相談もこまめにして、来やすい 雰囲気作りに力を入れたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	友人等の面会もあり、居室や好きなところで一緒に過ごされ る機会が持たれている。 教師をされていた入居者の教え子がまた訪問してくれるな ど、継続性がある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	利用者同士の関係については、職員が情報共有し、より良 いつながりが持てるようにしたり、その日、その時の状態や気 分の変化については、見守りや場合に応じて仲介役となる ようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	他施設より移つて来られた方の職員が面会に来てくれ、このホームで仲良くなれた方も一緒になって楽しそうに話される姿が見られる。	

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	時々話題にしたり、一人ひとりに聞いたりして把握に努めている。		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	職員や他入居者との話の中でよく自分から話題にされている方には、詳しく聞いたり、家族の面会時に聴いたりしている。		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	一人ひとりの生活リズムを理解し、出来ること、やれることを生かすよう支援をすることに努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者がいろいろな時に話した言葉を大切にし、申し送りで話題にしたり、介護計画作成のヒントにしている。		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	本人の変化に応じ、現状に即したケアプランを心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	以前より、入居者の状態や様子が記され変化がわかるようになった。本人の言動などに対して職員の対応もわかるようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況により、通院や送迎などの対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議では、地域の民生委員、あるいは区長さんなどの参加があるので、地域でのホームの存在についての思いや考えを述べてくれている。ボランティアさんによる余興も時々あり、楽しく過ごさせてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望(毛染め、パーマなども)に応じた理美容、あるいは訪問理美容サービスを実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実際に必要時には、地域包括支援センターと協力して利用できるようにしたい。(1Fには支援者あり)		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方は、家族とも連絡をとり、付き添い、送迎など実施されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医により往診があり、協力医療機関でもある為、相談や治療が受けやすい。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回の訪問看護により、利用者も話したいこと、聞きたいことを実際に聞いてもらって安心されている部分が多い。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は職員が見舞った際、医療機関や家族と回復状況等、こまめな情報を聞くようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、状態悪化の方もいないため、職員は研修等での理解である。入居時に看取りの話は家族に説明されている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できることと、できないことの見極めが大切であり、普段から「自分たちのできないこと」をはつきりさせ、特に医療面については、限りがあるため、住みかえがあつても仕方のないことであるが、その際本人、家族の納得のいく支援を行う。	○	他グループホームの事例を聞いたりして、勉強会に参加し、私達のグループホームでできること、やりたいことについて支援の方法を学んでいきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換を行い、支援の内容、注意点については細かい連携をするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わり方には、職員一人一人が意識して対応の徹底を図っている。	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたり、押し付けにならないように、入居者に合わせた提案の仕方を考えたりして、自分で決定する場をつくっている。(レクや食べたい物のメニュー、いる、いらない、する、しないなど、どれならいいのかなど)	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日、その時の気持ちに沿った中で流れしていくよう、体調にも配慮しながら支援している。 職員のその日の体制にもよるが、一人一人の思いや希望に柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望時には、できるだけ沿えるよう、送迎をしたりあるいは、ホームに散髪に来てもらっている。	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より、食事の準備や片付けなど、積極的な姿が見られなくなった。職員側から働きかけ、盛り付け、おしごりたたみ、配膳等をやってもらっている。買い物については、お茶菓子を貰いに行くこともある。	
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、持ち込み可能である。飲み物もお茶だけでなく、コーヒー、紅茶等用意し、菓子類も本人管理されている人もいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人行きたいときにトイレに行き、本人のリズムに合わせている。失敗があったら、さり気なく後始末等をしている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の午後が一応入浴となっているが、希望に合わせた時間や嫌がる際などには、別の日など柔軟に対応している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中動的活動に誘いかけ、その後は休息や静的な活動と、バランスよく一日過ごせるよう配慮している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事前情報を生かした役割ごとでも、少しずつ変化が出てくるので、変化に合わせて、できそうなこと、やれそうなことをお願いしている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員ではないが、少額手元に持っている方もいる。買い物には、自分から支払いしてもらったり、出張駄菓子屋さんに来てもらい好きなおやつを買ったりする楽しみを味わってもらったりしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やその人のその時の希望に応じて、戸外へと出たり、季節を感じもらっている。 バスに乗り、外出の機会にあわせて外食などしてもらったりしている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	予めの計画や、職員の勤務調整をしながら、バスなどの乗り物や、食事などについて検討し、外出や外食なども楽しめるよう工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるようにしている。 遠くに離れている親せきから電話がかかってきた時はとても嬉しそうに話す姿がある。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者の都合の良い時間帯にきて頂いている。好きな場所で過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういう行為が身体拘束になるか理解してもらい、職員の共有意識としている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関チャイムにて、戸の開閉を意識している。夜間以外は殆んど施錠せず過ごしている。必要時は、施錠もあるが、必要なくなったら、すぐに解除している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は同フロアの職員が見守り、状況把握するよう努めている。夜間は、居室から出入りする入居者が見渡せる位置で、また時間毎の巡回等で安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせて、物品の保管管理の方法を変えている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを見たり、個々の状態の変化には、すぐ周知徹底されるよう、申し送りあるいは、連絡ノートを活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの導入において、全職員、ホームにて研修済みである。 定期的な訓練は行われていない。今のところ自己研修である。	○	時々研修、講習していないと、忘れてしまうこともあるので、積極的に学んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主消防訓練が2ヶ月に1回、夜間想定や地震、年1回は消防署の協力により、消防訓練を行っている。実際にカセットコンロで非常食の実食もしている。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時や、その都度起こり得るリスクについて、家族等に説明し、ホームの対応に理解してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変時は、バイタルチェックを行い、記録したり、管理者に報告する。 職員間でも共有したり、訪看の指示を仰いだりするなどの対応をとっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方箋がいつでも見られるようにし、職員が把握できるようにしている。 服薬時は、本人に手渡し飲むまで確認するようにしている。 24時間訪問看護対応と医療機関とも連絡体制を確保している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便チェックを個人ケースに記入したり、体操を取り入れたりする。 食材にも工夫し、纖維質のものや乳製品など積極的に取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人に応じた口腔ケアの介助をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回の体重測定実施後、先月あるいは、それ以前も含め、比較をし、一人一人の体調も含めて、量やバランスを検討している。 管理栄養士によるアドバイスや献立作りの工夫を聞いている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業内マニュアルを作成し、職員が各々予防や対応に努めている。研修にも参加したり、感染症には情報収集を行う。入居者の家族に同意をもらい、インフルエンザ予防接種を実施している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁は、食材毎に熱湯消毒やふきんも含めこまめな漂白、除菌を行っている。 調理器具や食器の乾燥後の収納を徹底している。 食材は一日分ずつなので、買いだめはしていない。又、残りの食材のチェックも頻繁に行うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節感のある、明るい雰囲気に心がけ、お花や写真などで演出している。入居者と職員の壁面製作飾りも利用している。皆さんが訪問しやすい雰囲気作りに努めている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、いつも花があり、季節を感じてもらえるようにしている。 フロアや廊下、食堂などにも季節の飾りなどは入居者と一緒に考えて飾ったりしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着ける場所、自分の定位置などが確保できるようにしてある。 数人でくつろいだり、ひとりになれる場も提供できるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた物の持ち込みや、写真等持参され、居心地良く過ごせるようにしてもらっている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にエアコンのリモコンがあるので、昼夜共にこまめに訪室し、入居者の様子や、発汗、冷えすぎのないよう配慮している。 換気と消臭に消臭剤も利用し、悪臭が出ない様工夫している。	
(2)本人の力の發揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて、廊下・トイレ・浴室等の手すりや夜間の廊下足元照明など、自立や安全の確保に努めている。 常に見直しをし、柔軟な対応ができるようになっている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状況や状態に合わせて、職員がどうしたら本人の力でやれるかを話し合い、安心と自信を持ってできる工夫をしている。 トイレや居室プレート、洗濯物入れ等、個々に応じて必要な物を用意している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇、移動可能のベンチなど用意しており、休んだり談話できるスペースもつくっている。 建物外周もちょっとした散歩コースとして利用している。	

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・広い駐車場で年1回の納涼祭には、家族、入居者、地域の方々など、大勢との交流が持てる。
- ・畑や花壇には、いろいろな野菜や花などが植えられ、成長過程から収穫などを楽しみながら活動できる。
- ・自然が多く、田畑が周囲にあるため、また山々もよく見え、季節を感じられる言葉かけや、制作活動に活かすようにしている。